

2010年夏のプログラミング・シンポジウム

2010年の夏のプログラミング・シンポジウムは、「みんなが使えるみんなのためのプログラミング」と題して、2010年9月1日(水)から3日(金)まで、長野県小谷村のホテルグリーンプラザ白馬で開催された。

発表募集には次のように書いた。

2010年夏のプログラミング・シンポジウムは、「みんなが使えるみんなのためのプログラミング」というテーマで行います。プログラミングはそれ自体が楽しいものですが、本来はプログラミングという行為そのものが目的というわけではなく、何か有用なものを創り出そうという信念(あるいは建前)があるはずで、しかし、自分以外の人、すなわち「みんな」にその有用性を納得してもらうのは容易なことではありません。

「みんな」といっても、不特定多数に限らず、初学者「みんな」、同じ分野の将来の研究者「みんな」、コンピュータを使い慣れていない人達「みんな」、など、さまざまな対象が考えられます。

このような「みんな」に応じて変化する要求を満たし、「みんな」にプログラミングの「有用性」を伝えるために、我々はどうのようなプログラミングをしてきたでしょうか。どのようなプログラミングをしていくべきでしょうか。アプリケーションの見た目をとっつきやすいものにする、というだけではなく、インタフェースを使いやすく改善する、可用性・レスポンスタイム等の性能を向上させる、ネットワーク上のどこからでも・どんな端末からでもアプリケーションにアクセスできるようにする、想定されるユーザ層の要求を詳細化し提供機能を修正・追加する、プログラムの設計を見直す、公開してユーザの反応を得る、などなど、プログラムのすべての段階において意識され、改善されることによって「使える」「納得される」プログラムが得られるのだと考えます。

今年の夏のシンポジウムでは、プログラミングの有用性を大きなテーマとして、自己満足では終わらないプログラムとプログラミングに関する話題を募集します。

なお、話題の例としては次のようなものを挙げた。

- 公開したらこんなにユーザが付いたアプリケーション
- 自己満足に陥らない「オレ言語」
- 魅せるデモのための入力例の効率的な発見
- 違うバックグラウンドを持つ人にプログラミングの有用性を語る方法
- 他のプログラマを楽しませるプログラミング
- 自分が楽になるために書いたプログラムが他人の役に立った事例
- ユーザ層に合わせて同じプログラムをこう変えて行った
- ユーザによるカスタマイズが可能なプログラミング環境
- 他人による再利用性を意識したコーディング技法
- 作ってみたが自分でも使わなかったお蔵入りシステム

この呼びかけに対し、17件の発表と31名の参加者が集まった。ミドルウェアや言語処理系、教育やインタフェース、クラウドなど、多岐にわたる発表があり、いずれの発表も口頭であるいは会場に設置されたチャットでの活発な議論がなされた。

また、高地で晴天に恵まれ、2日目の少し長めにとった昼休みの間にハイキングに出かけた参加者もあった。夜のセッションでは、成功した言語やシステムの例をホワイトボードいっぱい書き込んで盛り上がるなど、本シンポジウムは発表での有意義な議論のみにとどまらず、楽しい集まりとなった。

シンポジウムの準備に携わっていただいた皆さま、ご参加いただいた皆さまに、無事こうして記録を残せる充実したシンポジウムとできましたことに感謝いたします。

2010年 夏のプログラミング・シンポジウム幹事団

山口 文彦

岩崎 英哉

丸山 一貴

三輪 誠

横山 大作

夏のプログラミング・シンポジウム 2010プログラム

日 時：2010年9月1日（水） 受付開始 13:00
～ 開会 13:45
2010年9月3日（金） 閉会 11:10
場 所：ホテルグリーンプラザ白馬（〒399-9422 長野県北安曇郡小谷村千国乙12860-1）

第1日 9月1日（水）

開会の辞（13:45～13:50） 山口文彦（東京理科大）

セッション1（13:50～15:10）

座長：中山心太（日本電信電話株式会社 情報流通プラットフォーム研究所）

- ・フィジカルコンピューティングへのモチベーションを向上させるブレッドボード
HMMBBの提案 宮下芳明（明治大）
- ・SMLによるゲーム木探索の演習のためのソフトウェア 山口文彦，榎本 進（東京理科大）

セッション2（15:30～17:30）

座長：西岡真吾（国立情報学研究所）

- ・視覚的コンテキストによる検索結果提示 丸山一貴（東大），井桁正人，寺田 実（電通大）
- ・文字入力の効率化なるか？—その方法、インタフェース、アーキテクチャの提案—
大座畑重光（マッキンゼリジェンス（株））
- ・表計算ソフト上での複素行列応用のためのプログラミング 伊集院八郎（近大産業理工）

夜のセッション（20:00～22:00）

第2日 9月2日（木）

セッション3（9:00～10:20）

座長：山口（繁富）利恵（産総研）

- ・料理プログラミングの為の枠組みについて 吉川祐輔，宮下芳明（明治大）
- ・外国語作文として見るプログラミング言語 島田静雄（中日本建設コンサルタント）

セッション4（10:40～12:00）

座長：副田俊介（産総研）

- ・クラウド環境におけるコーディング手法の提案
中山心太（日本電信電話株式会社 情報流通プラットフォーム研究所）
- ・クラウドアプリケーションとしてのコンピュータ将棋プレイヤ「激指」 横山大作（東大）

セッション5（14:00～16:00）

座長：伊知地宏（ラムダ数学教育研究所）

- ・表計算ソフト上での数式応用のためのプログラミング
城 歩，伊集院八郎（近大産業理工）
- ・自然言語処理におけるアノテーション環境XConc Suite 三輪 誠（東大）
- ・連想オートマトン 西岡真吾（国立情報学研究所）

セッション6（16:20～17:40）

座長：寺田 実（電通大）

- ・プロトタイピングとリリース 川中真耶（東大）
- ・ビジュアルプログラミングについての一考察 脇田 建（東工大）

夜のセッション（20:00～22:00）

第3日 9月3日(金)

セッション7 (9:00~11:00)

- ・HMMMML2:モチベーション向上の為のコンパイラ
- ・文脈によるプログラミング言語処理系
- ・人流シミュレーションのためのプログラミング

副田俊介, 山下倫央, 大西正輝, 依田育士, 野田五十樹 (産総研)

座長:脇田 建 (東工大)

中橋雅弘, 宮下芳明 (明治大)

森下敦司 (NTTデータ)

閉会の辞 (11:00~11:10)

山口文彦 (東京理科大)